

# 関東ふれあいの道を歩く (11) 神奈川 (㊦巡礼峠のみち)

2019年8月1日池内 淑皓

2019年6月26日(木) 晴れ、暑い。 午前中関東ふれあいの道(㊩太田道灌・日向薬師のみち)を歩いた。時間も充分あるので、午後は引き続き「㊦巡礼のみち」を歩く事にした。

この道は、日向薬師に参拝して薬師林道を通り、七沢の集落に出る。宮ヶ瀬方面の道を横切って巡礼峠に向かう。尾根通しに北に向かい、御門橋バス停をゴールとする約12kmの道。



(首都圏自然歩道連絡協議会)

関東ふれあいの道 (11) 神奈川 (㊦巡礼のみち) 概念図



「㊦巡礼峠のみち」行程図



6月26日(木)午前中「⑩太田道灌・日向薬師へのみち」を歩いて、引き続きバス停から「⑪巡礼のみち」を歩く事とした



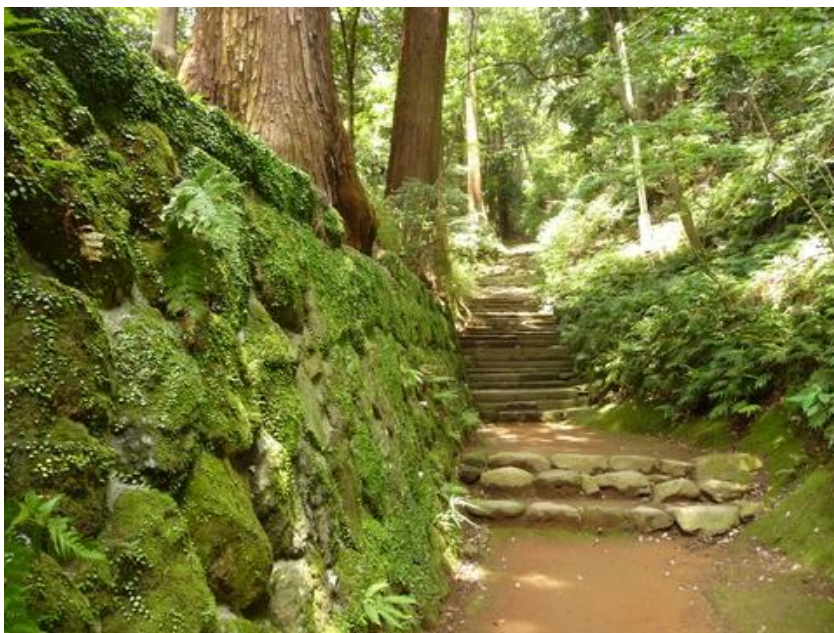
バス停から30m程戻ると日向薬師への参道が始まる、傍らには石仏と、ふれあいの道案内板が設置されている。



「仁王門」天保元年(1829)に焼失したが、天保四年復元された、金剛力士像が睨みを利かせる



仁王門を潜れば、世俗を離れた異境の世界となる



参道は自然林に覆われ



永きに渡り巡礼者達が通った参道が、自然の窪みを成す



遙か平安、鎌倉時代から人々が踏みしめた跡なのだろうか、磨り減った石段



「日向薬師」(国指定重要文化財)日向山霊山寺と称す。薬師如来信仰の霊場で、関東地方の古寺。本尊は平安時代前期に作られた鉈彫の薬師三尊像、霊亀二年(716)行基が開山する、二十三体もの重要文化財を収蔵する関東一の古刹。日本三薬師の一つ



本堂の茅を葺いた職人と一枚パチリ。茅は御殿場の茅で、職人共々費用は1億円と言う。現在日本での茅葺き職人は200人に減ったと嘆いていた。万治三年(1660)に再建



「鐘楼と二本杉」重要文化財。鐘は暦応三年（1340）の銘文を持つ、鐘楼は平安時代から建てられており、現在の楼は宝暦13年の棟札を持つ、また鐘楼は12本の柱で建てられ、12神将を表すとされる。杉は足利基氏（1349（足利尊氏の四男）が幡を架けた杉として有名



ふれあいの道は宝蔵庫の前を通り、境内を巡り裏手の駐車場から薬師林道に入る。



七沢に通じる寺林である薬師林道は、多くの自然林が植生し、健康保安林として指定されている



途中にはひと休み出来る「展望台」が設置されている（厚木方面を見る）



「亀石」杉林の中から突然現れた巨石



ふれあいの道は七沢温泉には行かず、亀石の先で林道を右折して、萩原林道を川沿いに下る。  
この道も考え方の一つではあるが、尾根通しに七沢温泉に出た方が見晴らしも良く、楽しいと思う。



結局道は宮ヶ瀬に行く県道に出て、七沢からの道と合して巡礼峠に向かう



巡礼峠までは曲がりくねって分かりにくいと思ったが



地元の方々の親切な道標で、迷う事なく峠まで歩けた



巡礼峠までの道は少し上り坂となるが、20分程で峠に出る



「巡礼峠」坂東33観音札所巡りのうち、六番札所「飯山観音」から、八番札所「星の谷観音」(座間市)へ向かう巡礼道である。峠には地藏尊像が建つ



江戸時代、巡礼の老人と娘がここを通りかかったとき、賊に襲われ命を失った。村人たちはその死を憐れみ、地藏尊を建てて供養したと伝える。

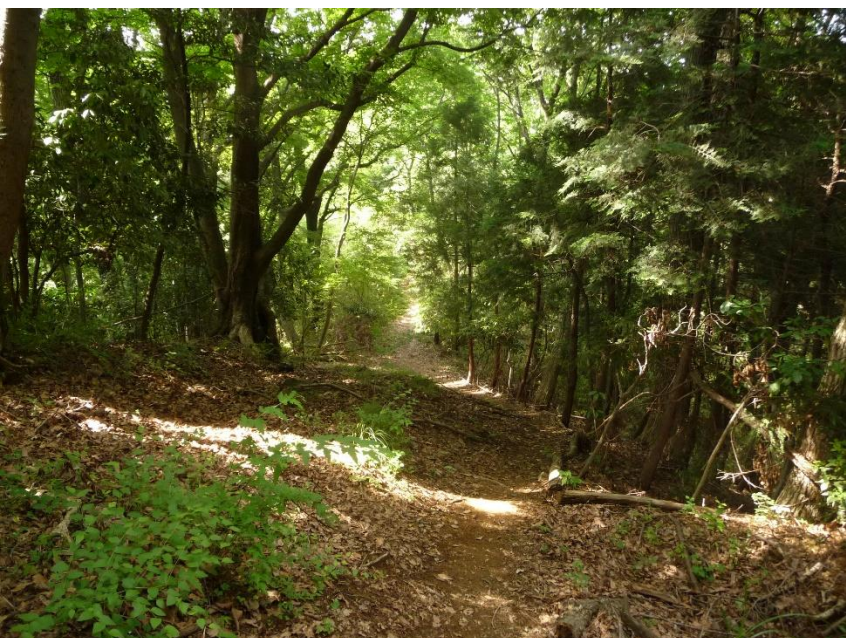




道は峠から反転して尾根上を北へ白山方向に向かう



物見峠への取り付きは一部強烈な登りの木道がある一方



何とも素敵な木漏れ日の尾根が、どこまでも続く



ピークの上に立てば「物見峠」、小高い山のピークを感じ、景色を見ながら一呼吸



貉坂には立派な石標が建つ、暖帯林に覆われた静かな峠道



石標もあった、御門バス停まで、1.1 kmとある



貉坂峠を下ると、白山から飯山観音への道を分ける、関東ふれあいの道はここから西へ、急坂を下って御門集落に向かう



今回のゴールは「御門橋」バス停、15：40に着いた。

このバス道は厚木--宮ヶ瀬間の県道 R60 号、一時間に一本のバスが出ている。

日向薬師バス停（11：40）→日向薬師（12：00-12：30 昼）→亀石（13：00）→七沢県道（13：30）→巡礼峠（14：10）→物見峠（15：00）→御門橋バス停（15：40-16：10）→本厚木駅（16：40）

16,500 歩 約 12 k m であった この項完

関東ふれあいの道を歩く（12）神奈川（②丹沢山塊東辺のみち）に続く